



P.A.I.Z.U.R.I

虹ぱい

「スコヤの胸治療したいの？
いいよ。」



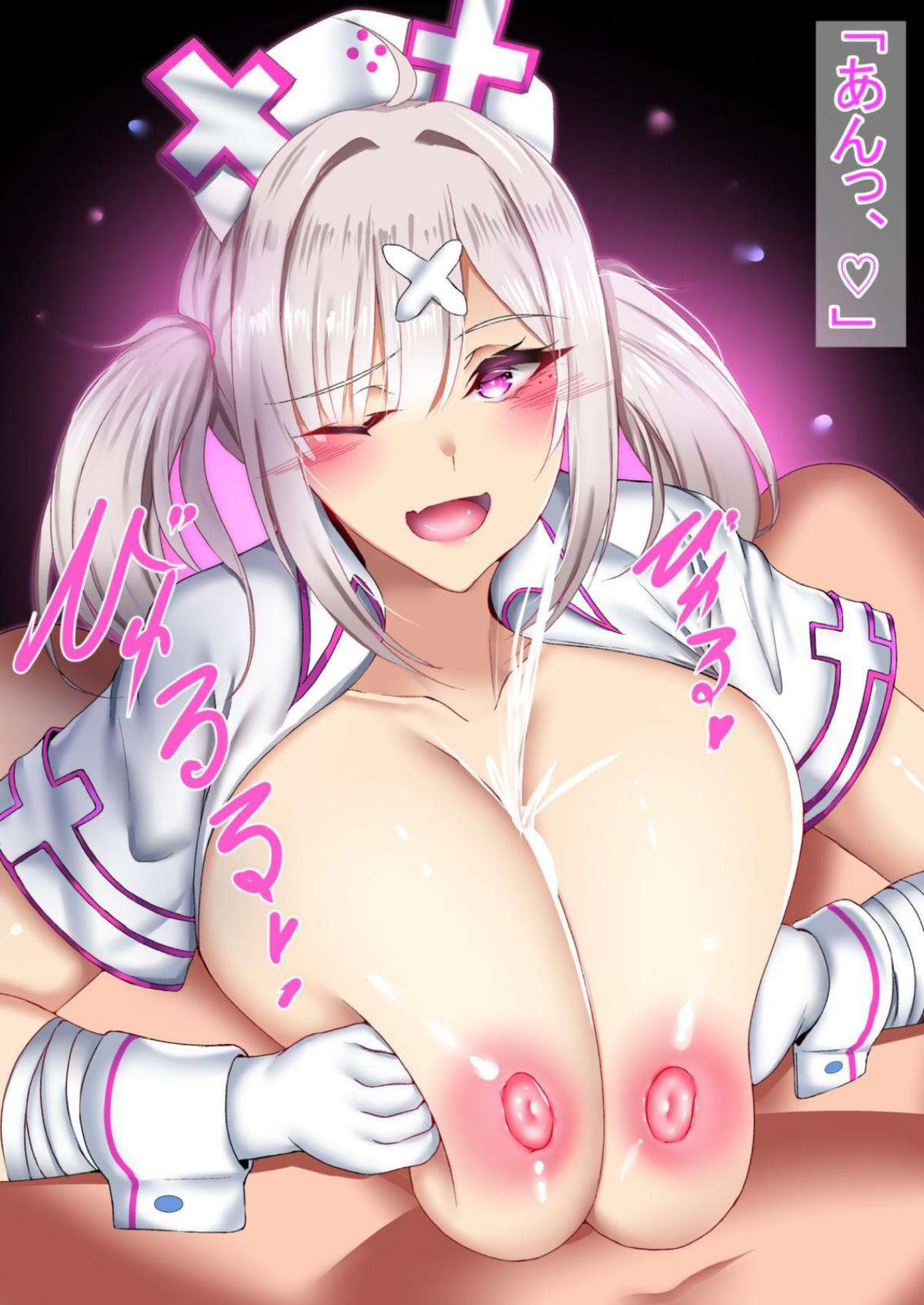


「ムン? スコアの胸に...でもキメていいよ?」

ば

ん
ん
ん
ん

「あんど、♡」



あんど♡
あんど♡
あんど♡

あんど♡



「いっぱいキメタね♡、そんなに
スコヤの胸の治療良かったの？」



「自分から動き
がないんだから
もう、しようがない
んだから」

んっ
んっ
んっ

んっ
んっ
んっ

「♡...♡」



ムカッ...ムカッ...

ムカッ...ムカッ...



「もうまた」んなに多く出して
これで満足した？よかった♡」

ぷん...♡

「もう、しずりんの胸ではさんでほしいだなんて、
貴方は変態さんだね。」

むぎゅ

キゅ



「どろろかな、上手くできてる??」
我慢しないで出したら出してね。

ズリズリ

ズクズク



「ん。」



んんんんん
んんんんん

「もうっ」んなに出して
もうっかれで満足かな？ふふっ♡」



とろっ

とろっ



「この衣装でしずりんが胸でいっっぱい絞ってあげますね。」



「だんだん固くなってきたね、遠慮なくいつでも出していいからね。」

ぽん

ぽん

ずん

ぎん

「あん♡」

とんぽんぽん...

んげんぽんぽん



「いっぱい出したね、もうこんなにいっぱい出して
しずりんの胸がそんなに気持ちよかったかな？」

とろん...♡

たぱん♡



「鈴原の胸に挟んで動かすするだけでいいの？
分かった。」



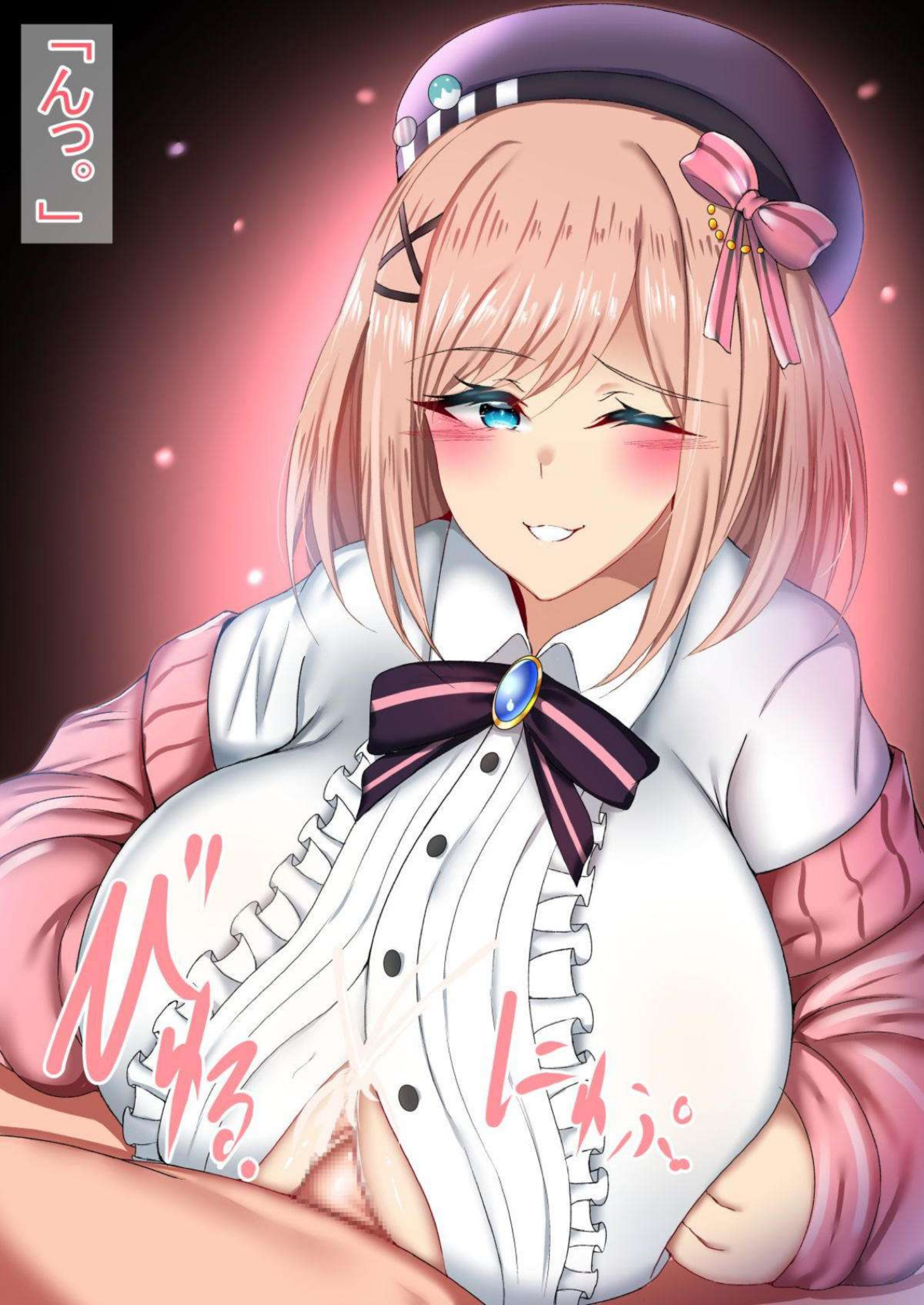
「ほらほら、
我慢しないでいづでも出していいんだよ。」

ぷんぷん

ぎゅぎゅ



「んっ。」



んっ。

んっ。

「わあ……凄い臭いがする……これが精液……」



「え……また胸でしたいの？
もう……仕方ないな。」



ズ
ッ
ッ
ッ
ッ

ズ
ッ
ッ
ッ
ッ

「んん、少し激しいよ。」



「あっ」



「またすごい量で出したね、
そんなに鈴原の胸気持ち良かったのかな？」



「やっぱり子犬は胸でシテほしいの？
もう仕方ないんだから。」

たかひ

ぎゅっ



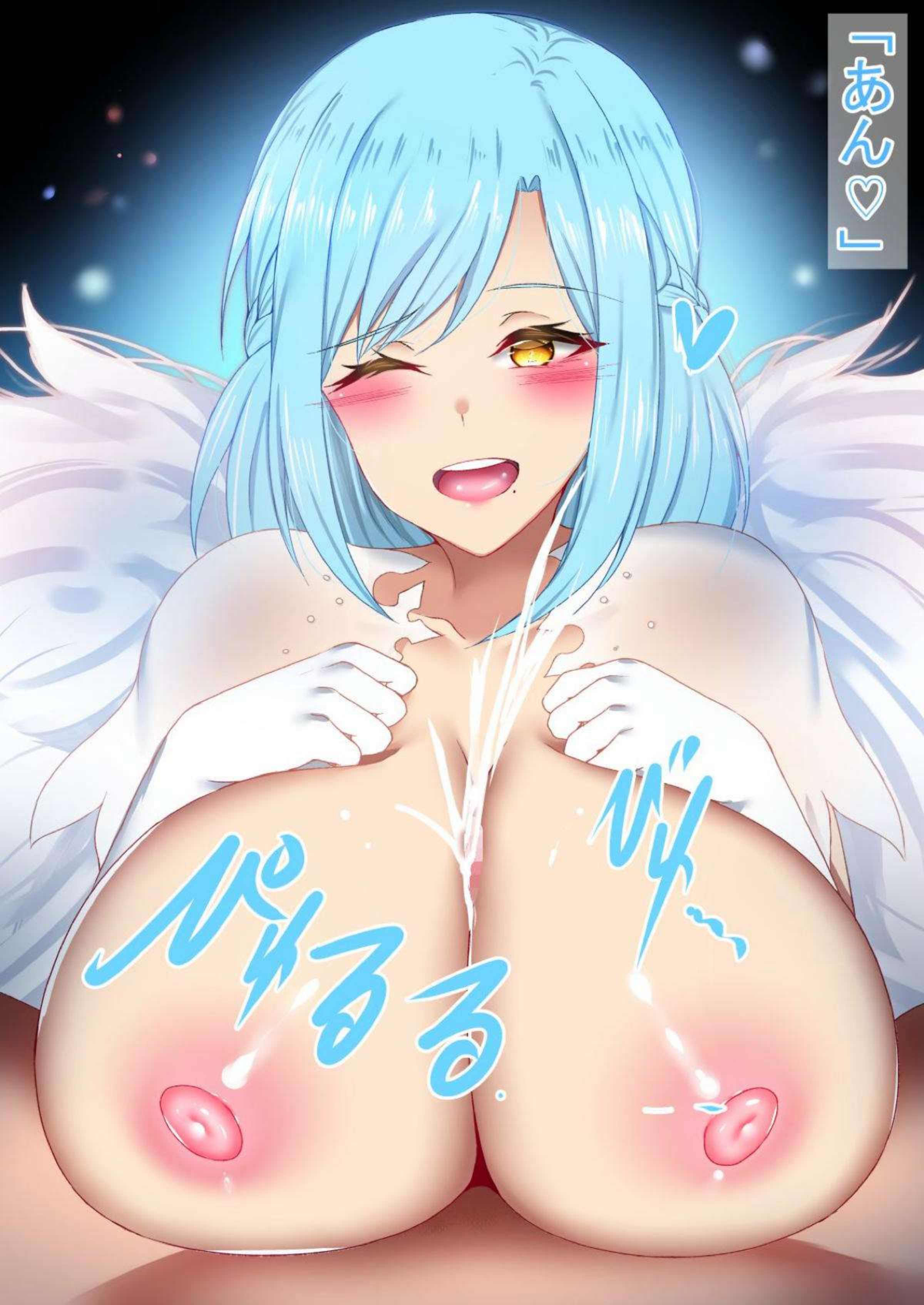
「胸の中でだんだん固く感じるわ、もうそろそろ出すのかしらっ？いつでもでも出して良いのよ。」

ぱんぱん

だんだん



「あん♡」



あはるる

あはるる

「もうっ」んなに胸に出して、
胸が精液まみれになっただわ。

だん

しん



「もう、またしたいのは良いけど、自分から動きたいなんて…もう欲張りさんだわ。」



ズル

ズルッ…

「んっ、ちよつと乱暴だわ。」





♡

やんこ

とんぱん



「もうこんなになに乱暴にされて、
いっばい出して…困った子犬だわ。」

ぽわん

とふんとふん。



「え……私の胸でして欲しいんだけど、
しょうがないわね」

ギョッ

女性



「ほら、どろろ、かしら、私の胸、
いつでもいいわよ」

ギギギ

ぱんぱん



「ん」





「もうっ！んなに出して、
そんなに良かったのかしら？」

ほわっ...

ぷん...
とびく...

「ちよつとおお…私を押しかけて
また胸でしたいのなんてあんだ…
とんだ変態さんね。」



「んっ…あんまり激しいわよ。」

ぱんぱん

だんたん



「あ。」



「もう「ん」なに出して、
これで満足したかしら？」



「え、胸で挟んでずりずりしたい？
まあ……いいわよ。」

ずりずり

ゴウー



「少し激しいわね、まあ遠慮せずに胸に出してもいいわ。」

ゴッ

ぽんぽん



「♡ん♡」



「わあ…こんなにいっぱいだしてもう
胸が精液まみれになっちゃったんじゃない。」

めろ

♡

どん



「またしたくなっちゃったの？
もう…仕方ないなあ。」



あーん
ぎゅん
ぎゅん

「ほくらほくら、我慢しないでいっても
出してもいいわよ。」

ほくらほくら...

ググググ...



「あん♡」



「もうまたいっぱい出したわね、
もうこれで満足でしょ」

ぐんぐん

ぐんぐん

































































































